

## 高齢者によるまちづくり活動と公共図書館の関わり - 鹿児島県鹿屋市柳谷集落を中心に -

泉 沙也香

2012年10月1日現在、日本の高齢者人口は過去最高の3,079万人となり、高齢化率は24.1%となった。今後高齢者人口は2042年にピークを迎えるが、高齢化率はその後も上昇を続けると推測されている。現行の社会システムは、逆ピラミッド型のニーズには対応できなくなっており、高齢者は支えられる存在ではなく、「地域社会の主演」として活躍できるような環境整備が重要になってきている。しかし、これまで公共図書館における高齢者サービスは、障害者サービスとほぼ同様に捉えられてきた。

このような背景をふまえ、公共図書館が地域で活躍する高齢者の支援を行うために、特に「まちづくり活動」に注目し、公共図書館における高齢者によるまちづくり活動支援の現状と、その阻害要因について明らかにする。具体的な方法としては、日本における高齢者の社会参加活動、生涯学習活動およびまちづくり活動の事例を文献調査する。また、高齢者がまちづくり活動を行っている地域において、高齢者と公共図書館関連機関へのインタビュー調査を行い、まちづくりを担う高齢者と公共図書館の関係性を明らかにするとともに、支援を阻害している要因を抽出する。事例として、鹿児島県鹿屋市柳谷集落を取り上げる。

調査の結果、現在高齢者による生涯学習としてのまちづくり活動が注目され、まちづくり活動が高齢者の生きがいや役割の創出、社会や地域への貢献をもたらすことが明らかになった。しかし公共図書館においては一部の図書館でまちづくり支援が始められていたものの、高齢者によるまちづくりに焦点をあてた支援はほとんど行われていなかった。

公共図書館が高齢者によるまちづくり活動への支援を行う阻害要因としては5つの要因が浮かび上がった。すなわち、(1)各関連機関/部署における高齢者イメージの差、(2)他機関との連携不足、(3)乳幼児・青少年向け支援の強調、(4)まちづくり活動支援という意識の欠如、(5)図書館機能の理解不足である。しかし、これらの阻害要因を解決することで、公共図書館における高齢者によるまちづくり活動支援は可能である。たとえば、地域内ネットワークへの参入、高齢者団体との連携、地域情報の積極的な提供などが考えられる。公共図書館は、いわばまちづくり活動のコーディネーターとして、高齢者によるまちづくり活動にも貢献できる。

ただしまちづくり活動支援は地域の特性やニーズによって、適切な支援方法が異なる。また、高齢者によるまちづくり活動は強制ではなく、あくまでも選択肢の一つとしてまちづくり活動を選択できる環境を整備していく必要がある。

(指導教員 溝上智恵子)